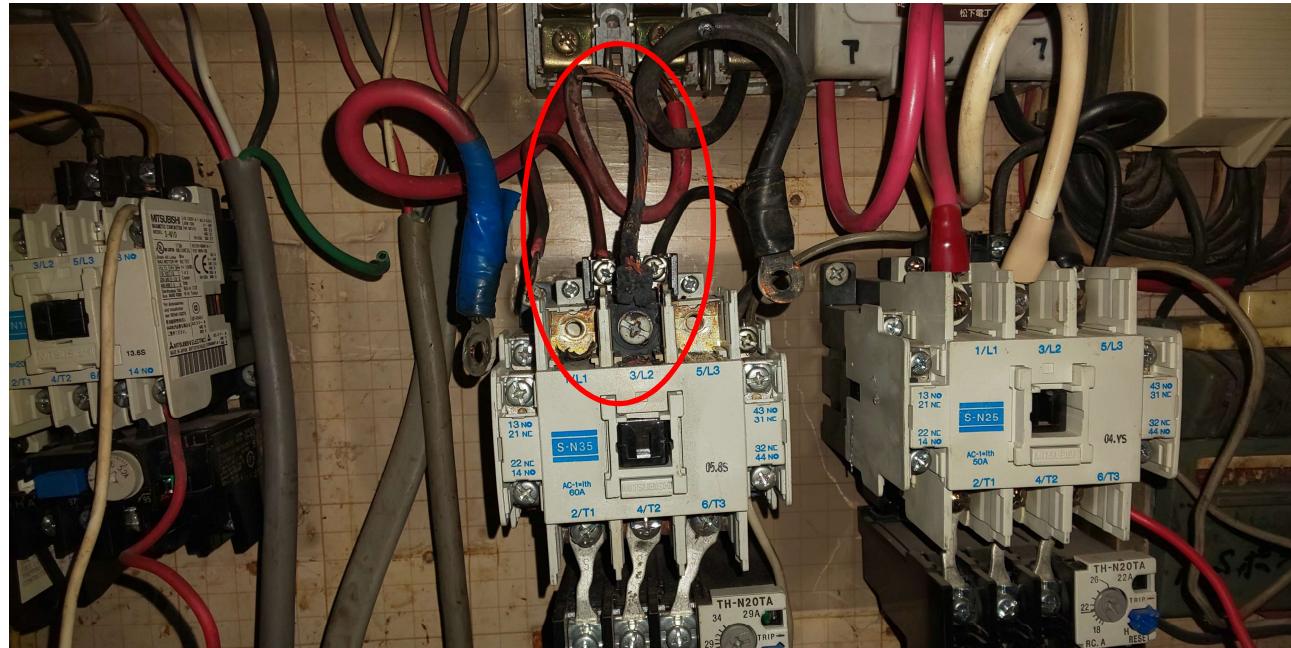


資料1：低圧 動力回路 S相焼損

概要：負荷設備は5.5kwのプロワ。焼損した配線は、8sq。負荷電流に対し電線許容電流は適切。

発生状況：年次点検のため停電し復電後、プロワを起動した際に焼損。爪付きフューズの溶断と現場担当者の発見にて大事には至らず。



原因：7本のより線の内、5本が断線してた。起動電流の負荷電流に耐えきれず焼損。

見解：その電線には絶縁テープで圧着端子部を保護されていたため、断線に気付かなかった。

電線に著しい変色もなかった。非接触温度計でチェックはしていたが、温度が高めと思ったのみで、気にも留めなかった。「温度が高めで“変だな”」と感じた際は、追究すべきであった。

資料2：高圧配電線路 断線欠相

概要：落雷が東北電力の送電線を直撃。現場担当者が雷の光と共に火花が散ったとの事。

送電側の碍子付近で断線し、垂れ下がった送電線は、幸いにも受電側であった。



発生状況：この事業所付近の一帯が停電となつたが、三相とも死線である事を確認のため検電。

この時、電力の区分開閉器が開放されていた。

復旧作業：PASを開放。1000V高圧メガ測定にて問題なし。高圧ヒューズの溶断はなし。

受電後、目視による確認にて高圧機器等の異常なし。

影響のあった箇所：低圧機器として、監視カメラの故障。計測器等のヒューズの溶断。

資料3：SOGボックスの鍵が凍ってしまって・・・抜けない。回らない。

解氷スプレーを持参していなかった…さて、どうしよう

